

会派視察報告

ネパールとの友好・人材
交流に向けた学習会を開催

― 若者の海外志向と
地域の可能性を学ぶ ―

本年、豊後大野市がネパールのルンビニ州ムシコット市と友好交流協定を結んだことをきっかけとして、県民クラブでは、国際的な視野を広げ、県政に新たな風を取り入れるため、ネパールとの友好・人材交流をテーマに学習会を開催しました。講師には、南アジア地域の教育・国際協力に詳しい明治学院大学の森本泉教授をお招きし、ネパールの基本情報や日本への期待、在留ネパール人留学生の活躍などについて幅広くお話を伺いました。

森本教授によると、ネパールは多民族・多文化国家であり、若者の海外志向が非常に高い国です。学びや就労を通じて得た知識や経験を母国の発展に還元したいという意識が強く、日本との人材交流に大きな可能性があるとの指摘がありました。



森本泉教授（明治学院大学）を招き、ネパールの現状や交流の可能性について意見交換する県民クラブのメンバー

活躍するネパール人留学生や技能実習生の事例も紹介され、言語や文化の違いを乗り越えながら地域社会に貢献している姿が報告されました。今後は、教育機関・自治体・企業が連携して、留学生の定着支援やキャリア形成を後押しする仕組みづくりが求められています。

さらに、ネパール政府は日本に対し、教育、観光、人材育成の分野での協力を強く期待しているとのこと。県民クラブとしては、今回の学びを踏まえ、ネパールとの友好関係を深め、地域の国際化や人材育成に生かしてまいります。

爽風館高校（夜間中学）
現地視察

9月8日（月）、大分県立爽風館高等学校を視察し、石井校長から学校の概要や課題について説明を受けたり、校内の施設設備を見学したりしたあと、意見交換を行いました。爽風館高校は、定時制（3部）と、県内唯一となる通信制が設置されており、1600人を超える生徒が学んでいます（定時制438人・通信制1214人）。近年、特に通信制への関心が高まっていますが、DX化の遅れなど、子どもたちの学びの環境が十分に担保されているとは言い難いのが実情です。そのような中でも、教職員のみなさんで子どもたちの学びを支えている様子が分かりました。

また、2026年4月に開校が予定されている夜間中学校「大分県立学びヶ丘中学校」が、爽風館高校内に設置されます。その準備状況についても確認を行いました。大分県では初めての夜間中学



【通信制レポートについての説明】

校開設であり、文字通りゼロからのスタートです。既存施設（爽風館高校）を使用するため、どのように共存していくかという部分で協議が難航しているよつでした。そこで、9月22日（月）に、義務教育課と高校教育課の担当者から、夜間中学開設に向けての進捗状況等についての説明を受けました。義務教育課夜間中学校準備班が精力的に入学者募集の取り組みを行っており、関心を寄せている県民が一定数いることが分かりました。反面、爽風館高校との協議が十分には進められておらず、開校に向け爽風館高校・学びヶ丘中学校双方に困りが生じないよう、しっかりと進めていくように、会派として要望しました。今後も、動向を注視していきます。

◎夜間中学校についての情報は、大分県教育委員会のホームページをご参照ください。

表紙写真背景について

木下郁・上田保先生像：大分県の発展に尽くした木下郁元知事と上田保元市長の功績を讃える銅像。文化勲章受章者の彫刻家・富永直樹氏による作品で、城址公園に設置されています。木下氏は県の工業化推進、上田氏は高崎山自然動物園開園など独創的な市政で知られます。

県議会ホームページにて
一般質問の中継録画を視聴できます

<https://oita-pref.stream.jfit.co.jp/>

県議会HPにて過去分も含め、
各議員一般質問の全録画を視聴できます。



意見書・請願の採択状況 2025年 第3回定例会

	県民 ラ主 ブ党	民 主 党	公 明 党	共 産 党	日 本 共 産 党	志 士 の 会	の 無 所 会 属	の 日 本 維 新 会	可 ・ 否
意見書	私学助成制度の充実強化等を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	可
請願	最高裁判決に従い生活保護制度の充実を求める意見書の提出について	○	×	×	○	×	×	×	否
	高齢者の聴力検査・検診及び加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求めることについて	○	×	×	○	×	○	×	否